

題 定置網探検隊—海から網の中をのぞいてみよう—

水産技術センター 相模湾試験場 主任研究員 田村怜子

前回、同じような題名でドローンを使って空から定置網の中を泳ぐいろいろなお魚を見てみよう！という内容で、ドローンから見えた魚について紹介させていただきました。

([定置網探検隊—空から網の中をのぞいてみよう—](https://www.pref.kanagawa.jp/documents/3870/teititanntenntai-sora.pdf)
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/3870/teititanntenntai-sora.pdf>)

今回は予告通り、「網の中を泳ぐ魚を水中から見た姿」について、漁師さんと課題解決に取り組む中で、試験のためということで特別に許可をいただき、定置網の中に入っている魚を数年に渡ってカメラで試験的に撮影した一部の映像をご紹介します。



図1 ほうじょうの船員さんと定置網内にカメラを設置する様子

まずは皆さんよくご存じのサバの写真です(図2)。よく見るとサバ特有の背中模様が見えます。網の中でも大きな群れを作っています。表層近くを泳いでいるときは、船で定置網の中に入って撮影していても群れで泳ぐ姿を見ることができる場合もあります。



図3の写真に映っているのはソウダガツオです。これもよく見ると胸びれから尾びれにかけての柄が見えます。ソウダガツオにはマルソウダという種類がありますが、これは宗田節という鰹節の原料に使われる魚です。主に高知県などで生産され、販売されており、濃厚な出汁が出るのでうどんやそばのつゆ用のお出汁として使われています。



図3 ソウダガツオの群れ

次の写真はタチウオの群れです(図4)。私はタチウオが大きな群れで泳いでいるところを想像していなかったのですが、この画像を見てびっくり…。こんなにたくさん集まって群れることを初めて知りました。少し水が濁っているものの、タチウオの体表の光沢感が見てとれます。



図4 タチウオの群れ

そして次の2枚はマイワシの群れです（図5）。大きな群れを作って泳ぐ姿は圧巻です。この時の定置網ではマイワシがあふれるほど獲れました。市場でも大量に水揚げされるイワシの鱗で床が銀白色に見えました。この写真が撮影されたときは冬だったので水中の透明度が良く、写真によってはマイワシの体にある点模様「ナナツボシ」が見えるほどでした。



図5 マイワシの群れ（上下）。下の画像から「ナナツボシ」は見えましたか？

長い期間カメラを入れて撮影しているといろいろな魚の写真を撮ることができます。試験データとしては好ましくないのですが、カメラが流れや網に押されて空の方向に画角が向くと、空を背景にした幻想的な写真が撮れることもしばしば（図6）。朝日をバックに泳ぐ様子は空を飛んでいるかのようです。



図6 朝日を背景に泳ぐイカちゃんたち

別の日にはカンパチとイナダ（ブリの小さいもの）が混ざって泳ぐ様子も見えました（図7）。違う魚種でも同じような大きさや見た目だと仲良く泳ぐこともあるのかもしれません。



図7 一緒に泳ぐカンパチ（上の1尾）、イナダ（下の4尾）

また、ある日のカメラ映像には、カメラのハウジングに付着した藻にかぶりつく食い逃げ犯の姿が（図8）。こちらとしてはハウジングに藻がついてしまうと何も見えなくなってしまうので、食べてくれるのは大変ありがたいのですが、たらふく食べてなんとも満足そうな顔には思わず笑ってしまいました（お掃除ありがとうよ…感謝）。



図8 ①→⑤の順で藻をもりもり食べる食い逃げ犯（メジナ）
最後の一枚は「ごちそうさま！」

以上のように、定置網の中に長期間カメラを設置して観察を行うと、いろいろな種類の魚が定置網の中で泳ぐ姿が見られたり、思ってもみなかったおちゃめな一面を見ることができたりします。一方で、このような形で漁師さんにとって大事な商売道具である網の中で長期間の継続撮影ができたのは一重に協力してくれる漁師さんのおかげです。当场ではこのように漁師さん達と協力しながら研究を進めていますが、これからもひきつづき現場が抱える課題の解決やお役に立てる情報を提供できるよう、試験研究に取り組んでまいります。